

東神戸医療互助組合

2018年度総代会方針(案)

スローガン

☆9条改憲と社会保障の改悪を許さず、憲法を暮らしの中に活かす運動を進めよう

☆連携と協同で地域のまちづくりの拠点となり、安心して住み続けられるまちづくりをめざそう

☆互助組合の活動を広く知らせ、居場所づくりと仲間づくりで、地域住民の生きがいとやりがいを見いだそう

はじめに

安倍政権による政局運営は、森友・加計問題をはじめ、厚労省による裁量労働制の不正データ問題や自衛隊の日報問題など、国民を欺き不正にまみれた状態が続いています。この憲法がないがしろにされている現状に国民が気づきはじめて支持率は低下しています。いま、自公政権や維新など補完勢力が進める危険な政治を、大きく転換させ安倍政権を倒す事が緊急の課題であり決定的に重要です。

2017年、国連では核兵器禁止条約が採択され、ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)がノーベル平和賞を

受賞。世界の流れは大きく核廃絶へと進みつつあります。

一方で、日本は安倍政権が米追随の核抑止論にしがみつき、核兵器禁止条約にも賛成せず、原発再稼働に突き進む、唯一の被爆国とは思えない対応が続いています。さらに、政府は改憲をめざし、戦後70年、平和を守る筈となつた9条を改悪しようとしています。貧困と格差は広がり、介護保険や生活保護、年金など社会保障の改悪が次々と行われ、憲法25条がかかげる精神は危機的な状況にあります。この様な情勢の中で行われた、県知事選、神戸市長

選、市議補選、総選挙では、改憲勢力が議席を伸ばしたものの、市民と野党の共同の取り組みは前進しました。

互助組合活動では、健康まつりを開催。各支部でも居場所づくりなどの活動が大きく発展してきました。また、HPH(健康増進活動拠点病院)が始動し、地域の健康増進を進め、SDH(健康の社会的決定要因)の視点を大切にする取り組みも始まりました。2018年度は、第43回全日本民医連定期総会方針の中でも「共同組織とともに、安心して住みつづけられるまちづくりの本格的な運動を」との提起がなされ、私たちの運動への期待がより一層大きくなっています。以下、201

第42回総代会会場のご案内

とき

6月3日(日)

午前9時30分開場 10時00分開始

ばしよ

勤労会館7F 大ホール

☎ (078) 232-1881

市営地下鉄、JR、阪急、阪神、ポートライナーの各三宮駅から東に徒歩5分

7年度の総括と2018年度にむけた方針を提起します。

2017年度のまとめ

平和と社会保障を まもる取り組み

2017年度は憲法がかつてなく注目された年となりました。特に改憲阻止にむけた3千万署名が四社（互助組合、共和会、研究所、あす）で取り組みられ、社保平和委員会等の会議の前に署名行動も行われ4800筆（4月10日現在）が集まっています。11月には新聞への1万人意見広告も143人の協力を得て成功しました。年度末には全日本民医連が作成した憲法DVDでの学習が班会などで行われました。

核兵器の課題では、ヒバクシャ国際署名に取り組み2500筆を集めました。夏には平和行進や原水禁世界大会にも参加し（7人）、大会前後には、壮行会も開催し49人が参加。終了後も東灘区原水協と合同で報告会を開催しました。原発ゼロの取り組みでも署名を始め、避難者健診など支援に取り組みました。ま

た、地域原水協の69行動にも参加してきました。

沖縄の基地問題では、全日本民医連の辺野古支援行動に2期連続して参加。2月に行われた名護市長選では支援を実施。引き続き沖縄の米軍基地撤去に向けた支援を強化します。

社会保障の関連では、憲法25条署名の取り組みを開始。また、社保協に結集し、国保

都道府県単位化にともなう国保料の値上げや介護保険料負担増、生活保護の切り崩しに反対し、こども医療費無料化にむけた「こども署名」にも取り組みできました。残念ながら「25条の会」結成には至りませんでした。今後も政府の進める「自助」「互助」への流れに対抗し、社会保障の充実に向けた問題の把握と改善に向けた取り組みが重要です。

神戸製鋼火力発電所建設における、大気汚染や地球温暖化の問題にも取り組み、公害調停にも参加。二酸化窒素力

プセル調査にも協力しました。

健康づくりと 保健予防活動

HPH活動では、地域チームに参加し、「居場所マップ（東灘版）」を作成。東灘消防署と連携した「安心シート」の普及に努めました。また、病院と「社会的処方への流れ」をつくりました。

健康チェックでは、定期的に取り組んだ御影、灘東、灘西、生田、葺合南、北、北神の各支部をはじめ、新たな場所で開催した支部も多く、うはら支部ではコープ甲南から実施の要求があり店舗1階で

開催。六甲アイランドや生田では地域のイベントで初開催。ほくらでは銭湯の軒先での開催など各支部が特徴的な取り組みをすすめました。住吉北では、全国的にも広がる「まちの保健室」を毎月開催。相談を始め地域の健康増進に努めました。

大腸がんチェックは、2月に病院外来フロアで高村医師を講師に学習会を開催し28人が参加。大腸がんチェック

の普及も260件と前年度を超えました。

認知症予防では、「脳いきいき班会」が進んでおり、全支部で11箇所に拡がっています。「脳いきいきだより」も健康ニュースと合わせて発行してきました。

ヘルスアップチャレンジには114人がエントリーし、80人が達成。ウォークイベントは新年早々に行われ19人が参加。健康料理教室も22人が参加し病院調理師の指導のもと盛り上がりしました。また、インフルエンザ予防接種の助成（1000円）を行い、318人が助成を受けました。

安心して住み続け られるまちづくり

居場所づくりは、東灘「野の花サロン」をはじめ、灘西

・東「ほおすき」、葺合北「ふきあいの郷」、葺合南「東診多目的室」、北神「いりどりの家」で、喫茶や囲碁、カラオケ、映画など多彩な取り組みを実施。そして、

兵庫では年度方針にも掲げた居場所を4月に開所。生田での居場所づくりは継続課題で

す。

相談活動では、各支部でアンケートを活用した訪問行動を実施。東灘エリアではHPHチームによる地域訪問行動を計7回実施。317件の対話で生活や経済の困難事例などの聞き取りを行いました。また、地域社保協の「なんでも相談会」へも参加しました。

ボランティア活動では、ボランティア委員会による傾聴講座を外部講師を招き3回開催。その後も学習会やボランティア養成講座を行いました。

各支部での「バス旅行」や「囲碁将棋大会」など、組合員の要求に応えた取り組みも開催しました。

共同組織の強化発展

基本課題の到達では、仲間ふやしが416世帯、出資金の増資が8010万円、純増で3360万円（3月31日現在）と目標には届きませんでした。前年を超える支部も多くありました。

「いつでも元氣」の普及では、全日本民医連主催の交流

会参加を機に各支部で購読者が増加。年間では46部も増やすことができた総数で404部に到達。互助組合独自の交流会も7人参加で開催しました。

職員向けの取り組みでは、教育学習委員会を中心に「新入職員」や「期中採用者」などを対象に互助組合の活動を説明しました。

現在、支部運営委員は171人。運営委員の研修交流会を2月に開催し、32人が参加。担い手不足や運営委員の高齢化の実態を共有しました。現在、職員を除く理事の平均年齢は72・3歳、運営委員は72・8歳です。担い手増やしが急務です。

健康ニュース配達協力者は404人です、手配り配達率は78・5%の到達となりました。健康ニュース配達協力も一人に負荷のかかる部数を解消し、日常の対話を重視していく方法を目指す意思統一をしました。

共和国との

共同の取り組み

秋の組織強化月間では、常

任理事が各事業所の管理会議に参加して訴えるなど職員と協力して月間の成功に努めました。

病院の外来満足度調査は、病院外来運営委員会と病院利用委員会の協力で2月に実施し340件のアンケートを回収しました。

医局との懇談も2月に11回目を開催し、医師10人を含め36人が参加。病院リニューア

2018年度方針

平和と憲法を まもるために

2018年度は安倍政権による国民投票を含めた改憲が狙われている重要な年です。憲法9条を守る大運動を中心に取り組みます。合わせて、核兵器廃絶と原発ゼロの運動に全力で取り組みます。特に「ヒバクシャ国際署名」を旺盛に取り組み、原水禁世界大会やビキニデー、平和行進への参加を強化します。また、戦争を知る世代から知らない世代へ実体験を継承する取り組みも検討します。

ルの進捗や病院への要望などを意見交換しました。

「健康まつり」は住吉公園で開催し約1000人が参加。今回は初めて東灘消防署の協力も得られ、住吉中学の吹奏楽部の公演も行い、高齢者から子供まで盛り上がりました。その他、「盆踊り」や「もちつき大会」も多くの地域住民が参加し成功をおさめました。

沖縄の問題では、辺野古基地移設阻止などへ継続して支援を行います。特に11月に行われる沖縄県知事選は沖縄の平和を守る重要な選挙となります。米軍基地撤去にむけて諦めず、支援を強化します。また、6月に沖縄を知る「沖縄平和ツアー」を開催します。

社会保障を

充実発展させるために

貧困と格差を更に広げる社会保障改悪を絶対に阻止する運動を強めるとともに、国保都道府県単位化にむけた保険

料増や年金改悪、生活保護の改悪などへの対応とたたかいを強めます。介護保険は要介護や要支援の保険外しが進む中、総合事業の問題点を把握し、自治体への改善要請を進めるとともに、介護難民が生まれないような受け皿づくりをすすめます。合わせて、憲法25条を守る取り組みの中で、生存権や健康権の学習と行動を強化します。

阪神・淡路大震災後23年が経過した今、新たな問題となった借り上げ復興公営住宅の追い出し問題への支援を強めます。また、南海トラフ大地震などに備えた地域の防災対策づくりにも参加していきます。

まちづくりを 発展させるために

さらに「居場所づくり」を発展させます。既存の居場所の更なる活動強化と合わせて、担い手となるボランティア探しと育成を進めます。生田支部での居場所づくりも継続して取り組みます。

無差別平等の（だれでも安心して住みつつけられる）地

域包括ケアの実践にむけ、「地域共生社会への対応」や「地域の福祉力」をアップさせます。

HPH運動は、地域チームを先頭に、SDHの視点で地域の実態把握に取り組み、健康ニュース配達時の対話や地域訪問活動などを実施し、行動から得た困難事例を把握し、社会的処方を受け皿につなげます。また、貧困問題や核家族化の実態に焦点をあて、「こども食堂」や「無料塾」などの開催を検討します。

まちづくりを進めるうえで自治体や地域諸団体との連携を強化し、民生委員さんやあんしんすこやか窓口、行政とともに「安心して住み続けられるまちづくり」を目標に取り組みます。また、地域の要求に応える形で自治体交渉をすすめます。

神戸市では三宮一極集中による居住地すみ分けの計画が進められています。暮らしの中で重要となる交通機関の充実をめざし、バス路線の縮小反対や駅のエレベーター設置運動にも積極的に取り組みます。また、暮らしやすい街を

目指し、「くらし夢マップづくり」を検討します。

北区の済生会病院と三田市民病院で危惧されている病院の統廃合やベッド削減の動きなど、国が進める「地域医療構想」に対し、地域住民に必要な医療や介護の充実に向け運動を進めます。

引き続き、二酸化窒素カプセル調査への参加や神鋼火力発電所建設による大気汚染や地球温暖化の問題にも取り組み、公害調停等に協力していきます。

健康づくりと保健予防活動を発展させるために

健康チェック活動では、新たな場所での開催と定期継続をすすめます。内容的には「フレイルチェック（高齢になることで筋力や精神面が衰える状態をチェックすること）」などを取り入れたチェック内容の充実（握力測定、口腔ケアチェック実践など）をすすめます。

また、健康チェックなどの取り組みを広く地域に知らせるために「互助組合統一ユニフォーム」作成をすすめます。

す。

保健委員会を中心にヘルスアップチャレンジやウォークイベント、料理教室などに取り組みます。また、大腸がんや乳がん、胃がん等の制度検診の受診向上にも事業所と協力して取り組みます。

組合員健診は内容のわかりやすさの追求を進めるため、病院職員の保健委員会参加をすすめる、事業所との運動を強めます。

組合員や地域のためになる班会や医療懇談会を広げます。特に班会は、自主的かつ継続的に行える形態を模索し世話人づくりもすすめます。また班会や懇談会の講座メニュー一覧の作成をすすめます。

認知症予防の取り組みは、「脳いきいき班会」の普及や、「脳いきいきだより」の定期発行などをすすめます。また、インストラクター養成にも取り組みます。

共同組織の力を発展させるために

互助組合活動を大きく発展させるうえで、「担い手づく

り」は重要な課題です。高齢化する運営委員や手配り協力者へ新たな参加者を見出す対策を日常のつながりから発掘し育成します。また、組合員が参加したくなる、やりがいのもてる活動へシフトさせます。

基本課題は、日常の対話など、つながりを強化しながら仲間ふやしや出資金増の目標達成をめざします。「子育て世代」へのアプローチも検討します。

「いつでも元気」の学習と普及に努めます。

互助組合活動の内容が伝わりやすい宣伝物の作成をすすめます。健康ニュースだけでなく、支部ニュースの発展や交流なども含めて情報発信体制を強化します。

9月に開催される「第14回全日本共同組織交流集会（神奈川）」に参加し、全国への取り組みの発信と合わせて、先駆的な取り組みを互助組合活動でも活かせるように取り組みます。

職員との協力をさらに強め、歩みながら互助組合組織を大きく発展させます。

共和国との共同を進化させるために

互助組合として、安心して住み続けられるまちづくりをすすめる、地域医療を守るために、病院リニューアルを「自らがつくる病院」との位置づけで取り組みます。法人の動きが具体化すれば、すぐに動き出せるように、出資金の増資運動や地域の仲間ふやし活動を強化します。

秋の月間のみならず、職員

【用語】

*HPH…ヘルス・プロモーション（健康増進）を実践するためにWHO（世界保健機関）が1988年に開始した国際的な病院のネットワークの名称。

*SDH…人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けること。貧困や生活環境が疾病や健康に作用することを表す。

と協力して「健康チェック」や「相談活動」「訪問行動」の取り組みと参加を強化していきます。

病院利用委員会での「外来満足度調査」をはじめ、各事業所での「居場所づくり」などを協力して進めます。

「巡回バス」の運行ルートや本数などを共和国と協力して、活用しやすくニーズにあった運行方法の検討をすすめます。

【基本課題（目標）】

仲間ふやし 1000世帯
出資金 増資1億円
出資件数 純増5千万円
のべ1万件
いつでも元気 450部の到達へ
世話人づくり 組合員50人に1人の運営委員を

